

# JAITI 20

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

JAITIとは、「財団法人日本農業研修協会の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの略文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基礎とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行所 (財) 日本農業研修協会の英文  
〒386-0502 長野県小県郡武石村沖456  
TEL.0268-85-3465 FAX.0268-85-3583

## 今日のジャイチ

二十号をお届けします。半年ごとの発行ですから、十年経過した訳です。常、日頃から、ジャイチの作業は子育てと同じ。一つ一つの小さな積み重ねの継続により育つ、と心して進めてまいりましたが、おかげ様で幼年期を越して少年期に入りました。この成長過程に、どれ程多くの方々の、物心両面に亘るご協力を受けたかと思ひ返しますと、「感謝ありがとうございませぬ。」以外の言葉は見当りませぬ。ここまで育てて下さった皆様、心から御礼申し上げます。

### ◆評議員改選

昨年十二月四日開催の理事会に於て、別掲十二名の評議員が、新・再任されました。この一月一日から早速活動開始していただいています。皆様のご意見、ご助言をお寄せ下さい。

◆電気引き込み工事  
十二月現在、学校校門迄の外線引き込み工事が完了しました。

校内の電線は、色々な事を総合的に考慮して、地中埋設にします。出来る所から少しずつ土の掘削を始め、準備完了した時点で、一気に電線を埋設してから、各建物に器具を取り付ける予定です。

七月の「JAITI」十九号で、ご協力をお願い致しました工事費への指定寄付金は、百十一名の方々の寄せていただきました。有り難うございました。

次号で、明かりが灯った写真を紙面でご紹介出来ればと思っております。

◆カカニ農場  
自立運営に格闘して二年目になりましたが、立派に引き継いでいくれています。

只、専業主婦が六百戸を越す状況から、鶏卵生産となり、生産者販売価格が下落しています。が、まだま



◆本報の変圧器。ここより分岐して学校へ

だ他作物とは比較にならない程の好価格ですから、当分生産農家の増の予想です。

◆パシユバント学校  
現在、八学年、八クラス、二百四十名が在籍しています。施設は、当初目標の十番目の教室棟、五番目の生徒用便所、五番目から八番目の教職員棟（八棟目は前号でも触れましたが、漏さず）を建てます。

此等の事業費は、皆様からの寄付金、バザー収益金、講演会謝金、公的機関の助

### 第5期評議員名簿 (平成13年1月1日～14年12月31日)

井出守雄	長野県武石村	(再任)
岩崎吉一	東京都立川市	(再任)
清住隆幸	長野県武石村	(新任)
工藤れい子	長野県上田市	(再任)
小林弘	長野県長門町	(再任)
小林守	神奈川県大和市	(再任)
小山一	長野県武石村	(新任)
林淳	長野県長門町	(再任)
松浦浩	神奈川県大和市	(再任)
宮坂公子	長野県上田市	(再任)
山井直人	東京都文京区	(再任)
ロブソン・ナンジン・シニルバ	長野県駒ヶ根市	(再任)

◆交流・研修・視察目的で、この六ヶ月間大勢の人々が武石の事務局、ネパールの農場と学校を訪ねて下さいました。

◆その中には、パシユバント学校開校からずっと毎年、記録を繰り返している、松田重實カメラマン、北沢町長(当団の理事)の言葉に触発されて、農家・農場・学校だけを対象にした研修旅行を組んだ長門町役場の職員もいました。この継りを大切に今後も作業を進めます。皆様よろしく。(菊池)



### ネパール情報

投資に関する、四回連載の最終回をお知らせします。

(5) 貿易事業  
経験豊富な外国商社はすでに、大インド、南アジア、チベット市場をその商売の視野に入れて、物事の決定を行っている。

SAARCグループに属する南アジアの国々は、特惠貿易条約を結び、南アジア自由貿易地域を作る意図を高らかに宣言した。

特にネパールは、インドと最特惠貿易協定を締結した。ネパールで生産した商品は、条件が合えばインド市場へ輸出される時、関税はゼロである。そのかわり、インドの物品税同等額の税は相殺されて課税される。

この事は、同じような産業については、インドの産業と同じ水準で扱われるという事を意味し、ネパールへの投資を、ネパール市場のみならず、大きな南アジア、特にインドの市場を視野に入れて投資できる有望な国と位置付けられる。

現在インドへの輸出禁止品目は、ビールを除くアルコール飲料、タバコ、葉巻、ネパールとインド以外のブランド名をもつ香水と化粧品と第一次産品です。

(ジャイチネパール、マン、シユレスト) (文責・菊池)



# 里親だより

## プラサンナ親子との対面

向井田コウ



▶向井田夫妻とプラサンナ君とお父さん(カトマンドゥにて)

「恵まれない困々の子供  
の里親になりたい」この私の願いを伝えてくれたのが以前の職場の大先輩及川ミサさんでした。JAITの紹介で、ネパールの可愛  
い女の子の里親になった喜びを伝え聞き、私も早速電話で申し込んだのが一昨年

の二月でした。八月に待望の里子、九歳のプラサンナ君が紹介されました。然も父親が上高地に滞在中で帰国前に東京で面会可能との事。早速、事務局の豊田さんのお世話で十月の初めに主人と二人信州へ向かいました。「一日も早く会いたい、松本城や河童橋も見たい」が主人の希望だったので。

浅間温泉で菊池事務局長さんからJAITの活動内容をお聞きし、翌日は快晴に恵まれた上高地で父親K・Cさんと面会し、日本語での会話の中に子供の特長に期待する教育熱心な父親の姿を見出し、胸が熱くなりました。プラサンナ君への土産を渡し、ネパールの訪問を約束しました。

帰国後のK・Cさんからは上手な日本語、プラサンナ君からは綺麗な英語の手紙が何回も届きました。可愛い里子を紹介されてからの一年は、アツという間に過ぎ去りました。

主人と二人で参加出来たネパールの旅。学校と農場の素晴らしい運営状況、感極まったヒマラヤの眺め、チトワンの野性動物たち、楽しく美味な料理。何れもが忘れ難いものでしたが私にとつてはプラサンナとの対面が最高でした。

カトマンドゥのホテルで緊張した面持ちで待っていた姿が忘れられません。飛行機が遅れに遅れ、三時間待たされた後、次室に声を

も待ち侘びたそうです。そして大勢の人達の注目に会い、緊張し、はにかんでおられました。K・Cさんからは紺青色のショールとトルク帽を頂きました。我々にとつて願った通り通りの品物、早速二人並んで写真を撮り送りたいと思っています。

プラサンナが私に注文した土産の英語の絵本を、嬉しそうに開き、次第に声を

出し、最後は日本語で読んでくれました。初めて会う私を喜ばせようと、父親に教わったのでしよう。

プラサンナは目下五年生。勉強が大好きなこの子を大学まで応援したい。私も元氣を出さねば」の思い一杯です。私に最高の生かぎを身えてくれたJAITの皆様から感謝申し上げます。

午後からは六、七、八年生ともう少し難しめの箱作り挑戦しました。学年が上がるにつれ、子供たちの理解力も上がっていき、自分で見本の箱を分解してどんどん先に進んでいく生徒もいました。まさに楽しみながら学ぶ、といった感じでした。わからなくて困っている生徒がいると、すぐに周知から助け船が出て、中には手の不自由な生徒もいましたが、無事

全員作品を完成させることが出来ました。一方、連日の雨でブリテプハイウェイでは再び土砂崩れが相次ぎ、学校の外は大渋滞になっていました。バスやトラックの中で夜を明かす人も多く、普段は通過地点にすぎないパシュバント学校ですが、水を求め

てやってくる人々で早朝から賑わうシーンも見られました。最終日は土曜日でしたがネパール人のドクターによる健康診断と簡単な衛生教育の講義がありました。昼食後の隙にも負けず、子供たちが元気に受け答えしている様子が印象的でした。今回ほんの僅かな時間でしたが、パシュバント学校で子供たちや先生方と過ごすことが出来、大変良かったと思います。厳しい生活環境にもかかわらず自主的に楽しんで学ぶ姿から、私も多くの事を学ばせていただきました。今後もJAITの方々のますますの御活躍をお祈りしています。

山本真理さんは、現在帯広畜産大学獣医学科六回生で卒業論文作成(実験・実習)と国家試験準備の毎日です。八月に二泊三日で、パシュバント学校を訪問した。

### JAITを通じての ネパール初体験記

山本真理

物でした。雨のため、教室内は暗く、日中でも電気がつけないのが当たり前になっていた。最初のクラスは時間をおいてしまいましたが、二クラス目からは要領がつかめ、教える方もだんだん子供達と笑い合いう余裕が出てきました。



▲バクタプールにてガイジャトラ見学  
左から二番目が山本さん、三番目が田山さん

▶同行者・田山忠實

（北海道帯広市）

（同行者・田山忠實）

▲昨年完成した第九教室



# バシュパント学校 寄生虫調査 (Ⅳ) (衛生教育計画)

のトイレで非常に使いやすくなっています。これを学校に持ち込んだのです。第二には学校の児童を通じて衛生観念を地域に普及するというものです。この計画については今後この紙上にジャイチから許可をいただければ掲載したく思っております。その計画の概要は次の通りです。

## バシュパント学校を中心とした衛生教育計画 (二〇〇一年計画)

Bashepant Integrated  
School Health Education

Learning Programme

(PROJECT)

概要

わたしたちがジャイチと協力して始めた寄生虫調査を含む学校保健プロジェクトは現在も進行中です。この二年間を通じて様々なアイデアが生まれました。まずは新しいトイレについてです。このトイレはブレード式トイレといえます。アフリカで開発された無臭

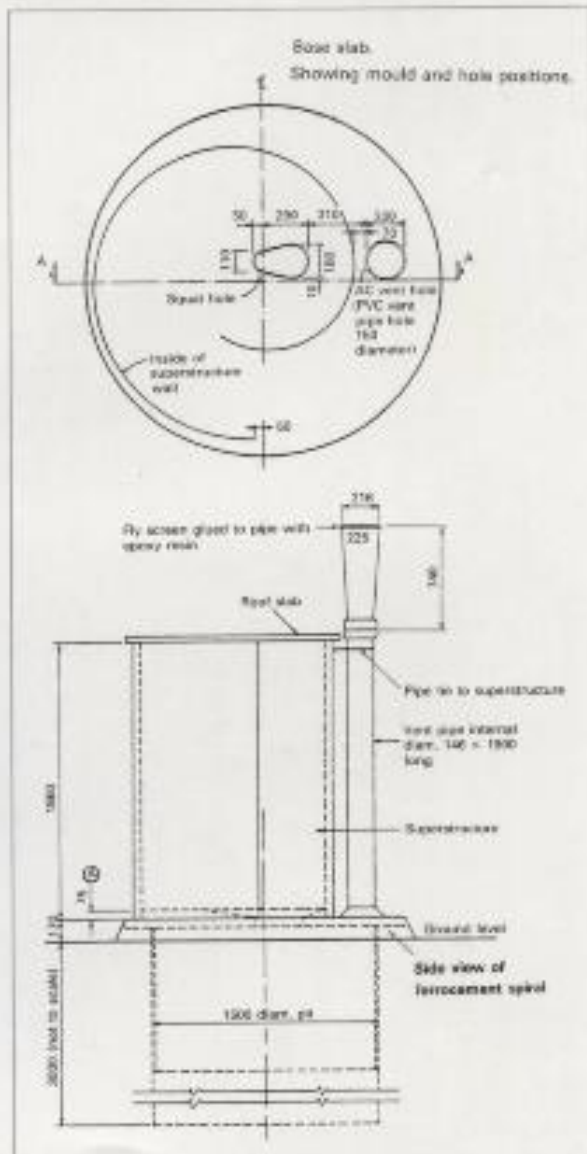
開発途上国における寄生虫疾患はとくに消化管寄生虫を中心と広く蔓延しており、その原因としては貧困、劣悪な衛生状態、教育の不備などがあげられる。世界保健機構 (WHO) の推定

では、蛔虫症では回虫症十倍、鉤虫症九倍および鞭虫症五倍の罹患者がいるとされている。これらに加えて原虫性疾患であるランブル鞭毛虫、赤痢アメーバ、クリプトスポリジウム、サイクロスポーラなども広く蔓延し、幼小児の慢性的な下痢の原因と考えられている。特にネパールでは水系感染によるサイクロスポーラ症の集団発生や回虫虫による慢性下痢症が多いとの報告もある。これらの腸管寄生虫症は単に健康上、医学上の問題だけではなく、疾患

による低栄養、貧血などのため労働意欲が低下し貧困を招くなど経済的、社会的問題でもある。戦後の日本での寄生虫疾患の撲滅と経済発展とが平行して進展してきたことは注目すべき点である。しかし開発途上国にこの日本の成果をそのまま適用するには、それら

の国々の文化的、社会的構造的背景を考慮する必要がある。また文化的要因や生活習慣が障害となる場合に、また複数同時進行の協力が可能となると考える。一方、医療のみの協力ではその経済的要因から成功している

例は少ない。ジャイチ援助活動の障害にならざるを得ない。ジャイチ援助活動の障害にならざるを得ない。ジャイチ援助活動の障害にならざるを得ない。



▲ブレード式トイレの設計図



このような概念より現在第五回目の衛生教育がネパール側によって二〇〇〇年八月になされました。将来的には学校の先生、児童に

よる衛生教育普及を目指しプログラムを考えています。ブレード式トイレの第一号も完成し、次回訪問時にはその印象や使い勝手について調査する予定です。一方、今までの反省点から得られた寄生虫疾患のマストリットメントすなわち集団治療を年二回実行し、再び寄生虫調査を実施する予定です。バシュパントにおける寄生虫の再感染率が非常に高い事を考えると、場合によっては年三回のマストリットメントが必要になる可能性もあると考えております。できればこのプロジェクトをジャイチの皆様の協力を得ながら続けさせていたいただければと考えております。





## ヒマラヤのプレゼント

木村 慈子

ネパールは、葉の花や桜、朝顔やそばの花、野性の蘭やポインセチアが同時に咲いている不思議な国でした。純白に輝くヒマラヤの峰々は神々しく連なり、そのふもとに住む人々はあまりにも貧しく見えました。この落差の大きさを、どう受け止めたら良いのか、私の心は揺れました。

夜のカーマンドック空港に降りた私達を最初に迎えてくれた裸足の少年達、四つの特を越えてパシネパント学校に向かう道中で見かけた屋台や物売りの人達に目を奪われました。チトワンではタルー族の踊りや象使いの腕前にはうっとりしました。

カカニ農場への街道は狭くてガタガタで登り坂です。その街道で何台ものバスとざりざり擦れ違いました。バスには中にも天井の上に



▲チトワン国立公園にて、ジャングルの散策(右端が筆者)

もこぼれる位の人が乗っていて、走るエネルギーの固まりのようでした。その合間を何百頭もの羊の群れが縫うように峠を越えて行きました。

ボカラで私達は旅のクライマックスを迎えました。ドラゴンホテルのオーナーのトラチャンさんが、彼の農場まで私達を案内して下さいました。歩き始めると川で何人かの男女が色とりどりの衣装を洗濯している姿を目に飛び込んで来ました。昔話の絵のようです。森の山道をどんどん登り、南のインドと北のチベットを結ぶ交易路となっている峠を越えると、収穫の時を遊んだ棚田が下の方に広がっていました。稲を刈る村人達、根幹する牛たち、遠い故郷にようやく帰って来たような、それはそれはなつかしい風景でした。

三時間あまりのハイキングで心地良い汗をかき、とうとうトラチャンさんの農園に到着しました。そこで私達を待っていたものは、お昼寝です。私達はしばし至福の時を過ごしました。

翌朝同じボカラで、ダムサイドを散歩していて、忘れられない場面に出会いました。産まれたばかりの小さな赤ん坊が道端ですやすやと眠っています。若いお母さんが気持ち良さそうに添い寝をしています。ネパールの多くの家では道端がリビングルームになっていますので、道を歩くとき替らしぶりが目に入ってきて来ます。

その母子は、ヒマラヤの懐に抱かれ安心しきった様子でした。

初めのうち、生活の質しさにカルチャーショックを受けた私でしたが、旅する程に、人々の豊かな表情に魅了されました。天竺に突き刺さるヒマラヤの神様は、感謝という宝物をプレゼントしてくれました。

（東京都 狛江市）

### 第十二回ネパールの農場と学校訪問の旅 参加者募集予告

ご希望の方は、今から日程を組んでおいて下さい。

●日程 十一月九日(金)～十八日(日) 九泊十日

●費用 二十五万円を予定

●参加条件 一、二時間散歩が可能の方

詳細は次号でお知らせ致しますが、お問い合わせは事務局まで。

☆ジャイチの企画で案内しますが、旅行会社のバックツアーではありません。

### お願い

次の方への郵便物が届きません。新住所をご存じの方は事務局までご連絡をお願いします。カッコ内は旧住所です。

内務棟様(長野県塩尻市) 浅田かんな様(東京都豊島区) 清水洋子様(東京都杉並区)

### ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心に留めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その様について説明を致します。ご協力をお願い申し上げます。

- ジャイチ基金……財団法人ジャイチの基本的財源の確保  
基金を信託銀行・協賛等で運営し、その果実(利息)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。果樹のようなものです。  
-基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が安定します。  
-基金へ寄附して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に皆様の手に残ります。
- ジャイチ維持費……ジャイチの運営維持費  
基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に役立てるべく目的のものです。一年間のような春播きで秋に収穫して終わります。当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。ジャイチ事業費  
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその応援費用として確保することを目的としています。  
-遺贈の手簿(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で贈られる)では贈れない時に皆様ご自身の懐に集める目的の寄附です。  
必要な時に皆様ご自身の懐にお知らせをさせて頂きます。
- ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。何にご寄附下さったのが、お教え頂きますと幸いです。もしも時に規定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

振込先 番号 { 郵便振替 00510-4-65434  
銀行振込 八十二銀行九支店(前) 420577  
口座名 財団法人日本農業研修協会の協賛  
住所 〒306-0502 長野県小県郡成石村沖456  
電話 0268-95-3465 FAX 0268-95-3583  
尚、金額に関しては規定がございませんので、お振りお振りご自分でお決め下さいませようお願いします。例えば、収入の1%を、小遣の1%を、的な考えは如何でしょうか。

### 古切手収集の報告とお願い

古切手集めを開始して、二年目に入りました。この間、皆々様からのご協力に心より感謝致します。

十二年度の実績は、日本紙つき切手十四、二kg 外国紙つき切手 二、三kg テレフォンカード使用済 四百十枚

合計 九千八百十円

新たに、使用済テレフォンカード集めも始めました。今後とも皆様からのご協力をお待ちしております。

送付先 〒一五八〇〇八四 世田谷区東玉川一〇〇一〇 安藤雅子

### 物故者のお知らせ

支援者の方で、当方で把握している物故者を掲載いたします。

ご冥福を祈りますと共に、善哉寺猪一郎 感謝申し上げます。

深谷 大子 十二年四月 (群馬県榎戸市)

白居 功 十二年七月 (滋賀県彦根市)

竹部 巖 十二年九月 (千葉県松戸市)

十二年十一月 (群馬県榎戸市)

### 編集後記

日本友の行方が、とても心配だ。一番は、財政赤字だが、少子化、動機のはつきりしない犯罪、コンビニエンス店、ゴミ、ある人が一転を切れぬといいたが、船長は耳をかさない。一体この舟はどこへゆくのだろうか。

船底には、次の世代への贈り物の「借金」と理め立て「ゴミ」を満載して、二十一世紀の海を西へ進んでいく。この先、大きな嵐や幾多の困難に立ち向かわなければならぬだろう。

そうして一世紀のち、日本丸は地球を一周してまたアジアに回帰するのだ。

(武石村 想)